

ICT機器を活用した授業実践 ～本校の研究の取組から～



千葉県立我孫子特別支援学校教諭 荻澤 久樹

1 はじめに

当校は知的障害特別支援学校で、昭和53年度の開校から平成21年度まで、小学部、中学部、高等部を置いていたが、平成22年度に高等部普通科職業コースとして県立沼南高柳高校の中に清新分校を設置、平成26年度に湖北特別支援学校設置により高等部が移転し、本校に小学部と中学部を置き、高等部を清新分校に置くこととなった。

2 本校の研究の取組

令和2年度より、県教育委員会から「知的障害のある児童生徒の質の高い学びを実現するための、ICTを活用した授業実践の工夫に関する実践研究」について2年間の研究指定を受け、教職員全員がICTを活用した実践に取り組んだ。県研究指定は終了したが、今年度も、引き続きICTを活用した授業実践に取り組んでいる。

3 ICTを活用した授業実践

- (1)VOCA、音声ペンを活用してのコミュニケーション支援。
- (2)知育アプリを使用してのタッチ操作や型はめ、パズル等の自立活動。
- (3)学習アプリを使用しての平仮名、漢字、数字、計算等の各教科の指導。
- (4)体育や自立活動などにおいて、タブレットで静止画・動画を視聴しての動作確認。
- (5)タブレットのカメラ機能を使用しての教材、作品等の拡大。
- (6)ウェブ会議アプリを使用してのオンライン授業。
- (7)動画編集アプリでの美術・図画工作の制作。

4 ICT活用実践集

一昨年度より年間2回、前期・後期に分けて、実践したICT活用を記録して1冊にまとめ2年と半年で160程の実践事例が集まった。



5 プログラミング的思考を育む学習

プログラミング的思考について、教科・領域等の目標や内容を踏まえた学習を達成するための思考過程として、物事を順序立て、手順や活動内容を明らかにし、目的を達成することをイメージした学習を組み立てていくことを押さえた。

6 GIGAスクール構想に向けて

本校への1人1台端末の導入はこれからになるが、直前の準備期間として情報モラルの再確認やタブレットの保管場所、利用ルールの検討を進めている。どの教職員もタブレットを活用した授業実践の工夫、児童生徒の個々の目標設定、利用場面など具体的な活用設定がイメージできるようにしていく。

7 成果と課題

この研究の取組で、多くの教職員がICT機器を様々な指導形態において積極的に活用するようになった。今後もICTを活用した授業実践を継続し、Society5.0に向けて伸展させていく必要がある。

令和3年度本校研究リーフレットとICT活用実践集は下記の当校ホームページの研究のページからも御覧いただける。

URL <https://cms2.chiba-c.ed.jp/abiko-sh/>

